

## 3月1日現在の就職活動状況

2014年度  
Vol. 4

大学の後期試験が終了し春休みに入る2月は、学生が就職活動に集中する時期である。3月1日現在の就活モニターの就職活動状況について調査を行い、2月末までの動きを分析した。

### 1. 活動の中心としている企業の規模

- 「業界トップ/大手企業」志向が44.7%。前年より4.5ポイント増加

### 2. 就職したい中小企業の条件

- 「企業として独自の強みがある」「将来性がある」などが上位に

### 3. 3月1日現在のエントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は74.2社。前年同期より3.3社増加

### 4. セミナー・説明会への参加状況

- 一人あたりの平均参加社数は45.4社。エントリーと同様に前年同期より微増で推移

### 5. オンラインセミナーの視聴状況

- 視聴経験者は68.6%。前年同期より16.7ポイント増加。視聴社数は前年より4割増

### 6. 選考試験への参加状況

- エントリーシートの平均提出社数は12.3社。1カ月で6.6社増加
- 受験社数は筆記7.2社、面接3.3社、集団討論2.4社。いずれも前年同期を上回る

### 7. 3月1日現在の内定状況

- 内定率は5.5%。前年同期(3.6%)より微増。「情報処理・ソフトウェア」が最多

### 8. 就職活動の難易度

- 「厳しい」が年々減少し66.2%。だが先月調査よりは8ポイント増加

### 9. 就職活動で困っていること

- 「エントリーシート」56.3%、「面接試験対策」55.2%の順。時間不足が主な理由

### 10. 就職活動・進路選択への家族の関与

- 「基本的に任せて欲しいが、相談には乗って欲しい」72.2%

#### 《調査概要》

調査対象 : 2014年3月卒業予定の全国の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)  
 回答数 : 1,365人(文系男子454人、文系女子385人、理系男子374人、理系女子152人)  
 調査方法 : インターネット調査法  
 調査期間 : 2013年3月1日~7日  
 サンプル : 日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。  
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

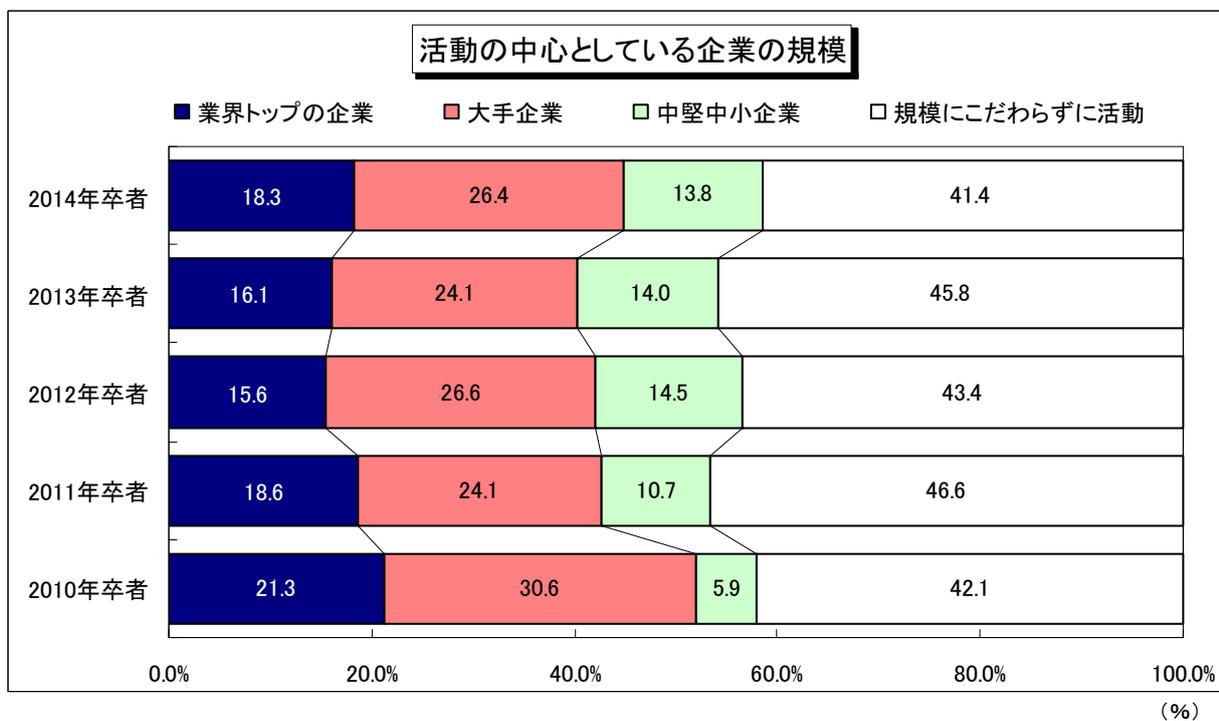
### 1. 活動の中心としている企業の規模

新卒採用市場の回復に伴い、学生に大手志向増加の傾向が見られる。

活動の中心としている企業規模を聞いたところ、「業界トップの企業」18.3%、「大手企業」26.4%と、いわゆる「大手ねらい」と回答した学生の合計は44.7%だった。前年（40.2%）より4.5ポイント増加した。大手企業志望者はリーマン・ショック以後、減少傾向にあったが、4年ぶりに増加した。「中堅中小企業を中心に活動」する学生は13.8%と前年と大きな変化はなかった。

大手を志向する理由としては、ビジネススケールの大きさや安定性などを挙げる学生が目立つ。また、就職活動期間の短縮で十分な準備期間が取れないことから、「中小まで見ている余裕がない」「中堅中小企業をどう探し、情報をどう得たらいいのか分からない」と、大手を中心に回らざるを得ないといった声もあった。

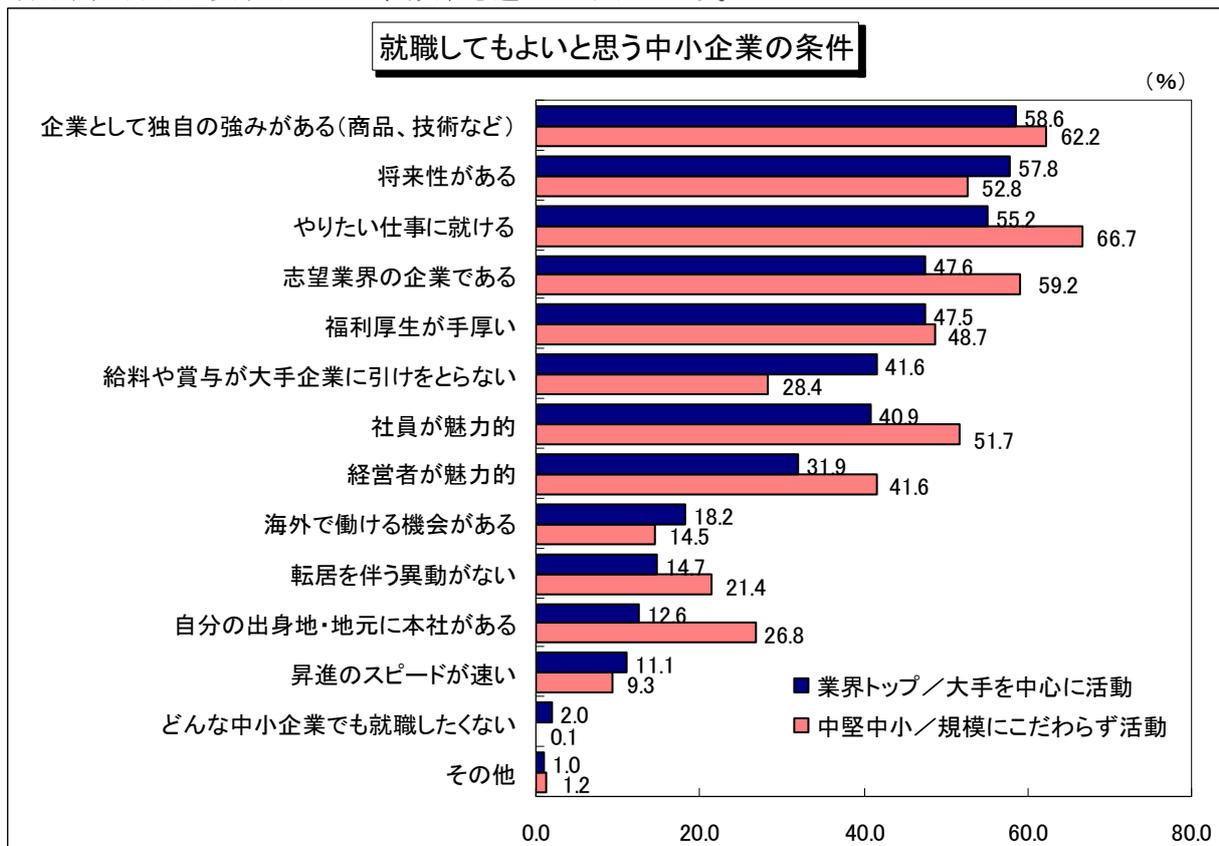
このデータを文理男女別に見ると、女子よりも男子、文系よりも理系で大手志向が強いことが分かる。



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
業界トップの企業を中心に活動	20.9	12.2	23.8	12.5
大手企業を中心に活動	27.5	24.2	27.5	26.3
中堅中小企業を中心に活動	12.6	14.8	13.4	16.4
規模にこだわらずに活動	39.0	48.8	35.3	44.7

## 2. 就職したい中小企業の条件

どんな条件の中小企業なら就職先として考えられるのか。就職してもよいと思う中小企業の条件を、大手志向の学生とそうでない学生とに分けて集計した。あてはまる項目をすべて選択する形式のため、非大手志向者で全体的に数値が高くなっているが、その中で大手志向学生のほうが高い項目は「将来性がある」「給料や賞与が大手に引けをとらない」など。これからの成長が見込める優良ベンチャー企業といったイメージだろうか。ちなみに、非大手志向者の1位は「やりたい仕事に就ける」で仕事軸だったが、大手志向学生では「企業として独自の強みがある」と、企業軸であった。学生の目が本気で中堅中小に向くのは大手の選考が一巡した後になると見られるが、打ち出し方を工夫することで、効果も違ってくるだろう。



### ■活動の中心とする企業規模について

○大手絶対主義でもなければ中小を避けているわけでもないし、中小でもおもしろそうな企業があれば選考を受けている。ES提出に説明会・選考などやることが多いなかで、中小の情報までカバーするのは物理的に困難。

<文系男子>

○女性が長く働きやすい環境を整えてくれている企業を探した時に、やはり大手企業のほうが制度が整っている上に、実際に利用されている。

<文系女子>

○大手企業の方が福利厚生がしっかりしており、安定した生活が送れそう。

<文系男子>

○世界と戦える会社を見ているとどうしても業界のトップになってしまう。

<文系男子>

○大手も中小も一長一短なので、特に気にしていない。

<理系男子>

○大規模すぎて会社の駒になっている社員をみながら、中小で活躍したいと考えるようになった。

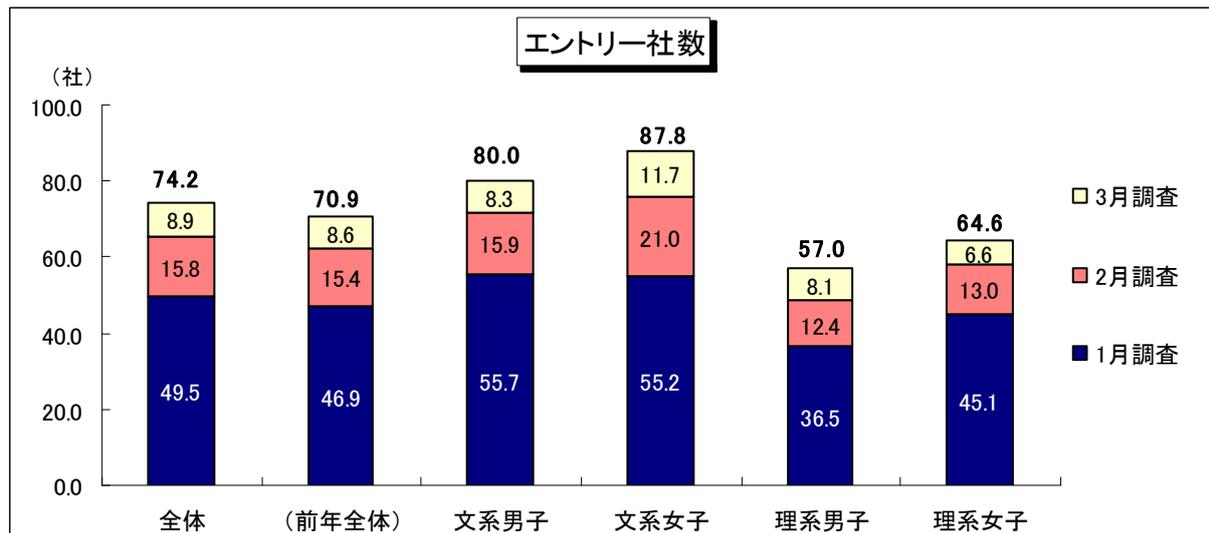
<文系女子>

○人数や売上などの数字でどこからが中堅かがイマイチ分かっていないので、あまり気にせずに事業内容が面白いと思ったらエントリーしている。

<理系女子>

### 3. 3月1日現在のエントリー状況

3月1日現在、企業への平均エントリー社数は74.2社。先月調査（65.3社）からの1カ月間の増え幅は8.9社。今期は1月調査以降、対前年比微増で推移している。前年度モニターの最終的なエントリー社数は89.1社だったので（2012年7月調査）、このペースでエントリー数が増えれば90社台前半まで伸びる計算になる。

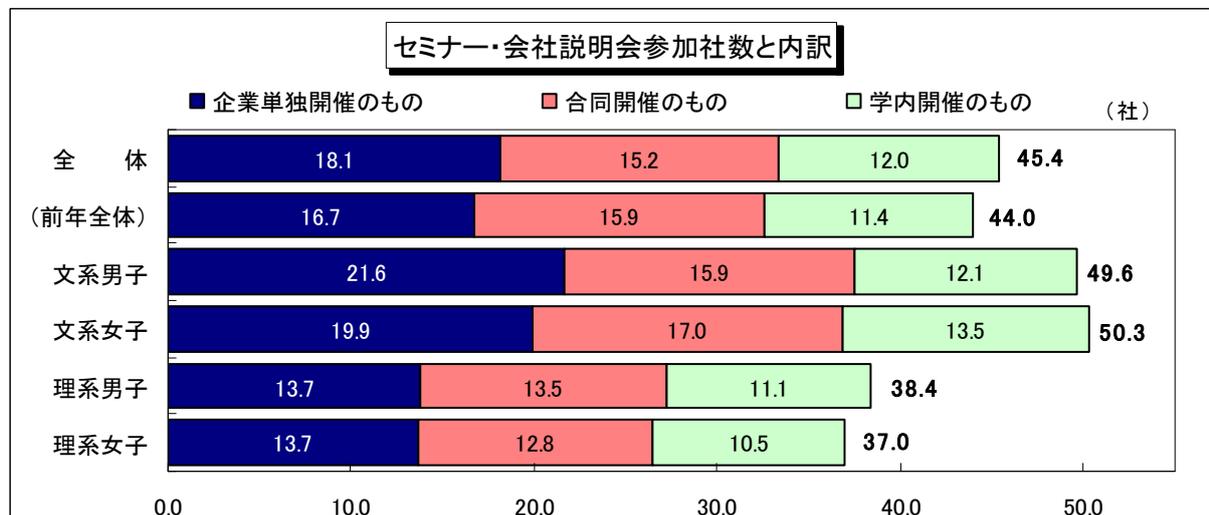


エントリー社数の内訳／平均

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト経由でのエントリー／平均	56.2	58.7	67.6	43.6	51.2
企業ホームページからのエントリー／平均	16.8	20.0	18.3	12.9	13.0
その他のルートでのエントリー／平均	1.1	1.4	1.1	1.1	0.6

### 4. セミナー・説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は 45.4 社。エントリー同様に、前年同期（44.0 社）より微増している。企業単独セミナーは先月（2月）調査では 10.9 社であり、この1カ月で 7.2 社増え、順調に参加している様子が分かる。当社が昨年 12 月に実施した企業調査で、「自社セミナーの開催数を増やす」との回答が 4 割を超えていたが、企業側のそうした動きに呼応し、学生の参加社数増に繋がっているのだと思われる。

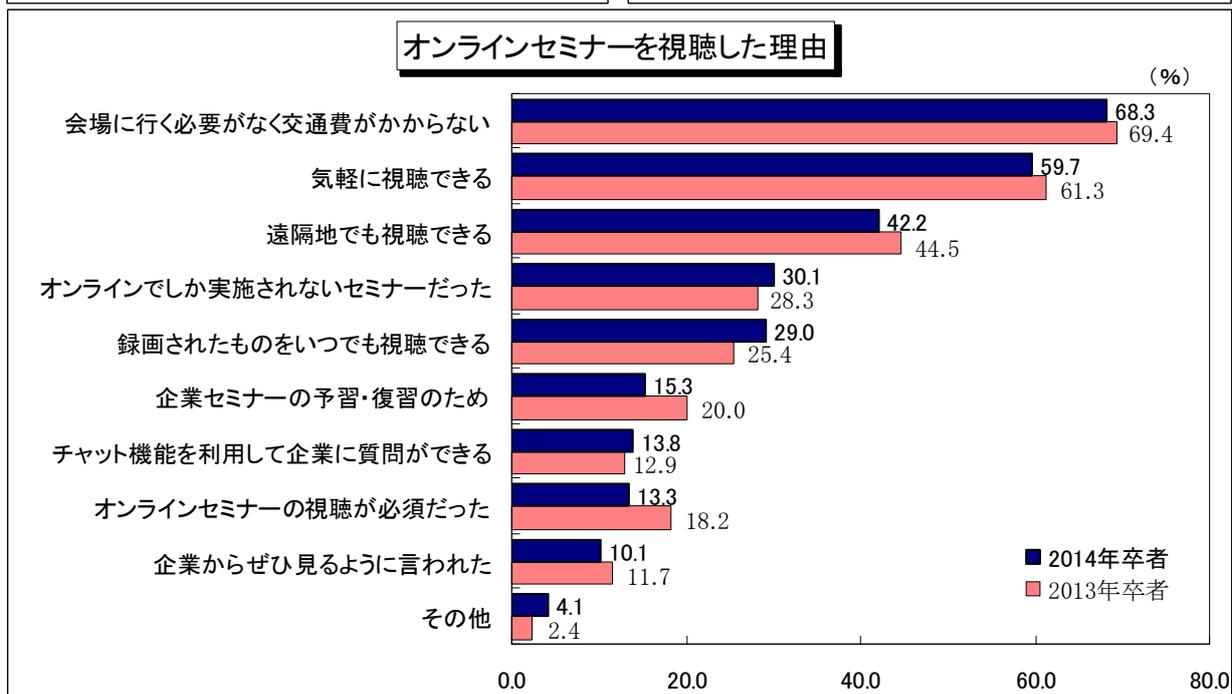
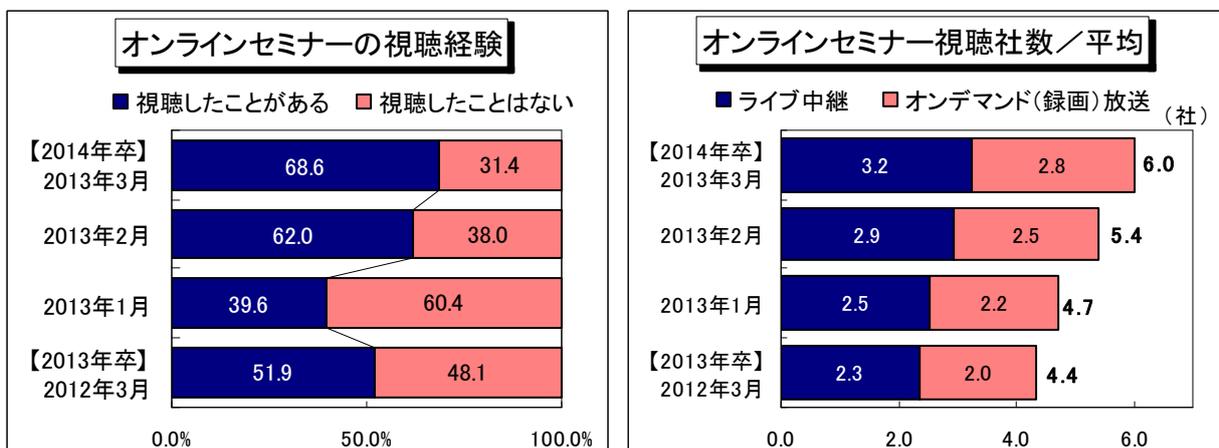


### 5. オンラインセミナーの視聴状況

3月1日現在、オンラインセミナー（WEBセミナー）を「視聴したことがある」という学生は68.6%と7割に迫る。1月時点では39.6%と4割を下回っていたが、この2カ月で視聴経験者は確実に増えた。また、前年の3月調査では51.9%と半数にとどまっていたので、昨年から今年にかけて企業研究のツールとして活用が進んだことが分かる。平均視聴社数は、ライブ中継3.2社、オンデマンド（録画）放送2.8社。それぞれ前年同期比4割ほど増えた。

オンラインセミナーを視聴した理由は、「会場に行く必要がなく交通費がかからない」が68.3%で最も多かった。とりわけ地方学生が多く選び、最も高い「中国・四国」が80.7%で、最も低い「関東」61.7%との差は約20ポイント。3位の「遠隔地でも視聴できる」はさらに地域差が開き、「九州・沖縄」66.7%、「北海道」62.2%に対し「関東」25.7%だった。（地域別集計は別紙ご参照）

オンラインセミナー視聴企業へのエントリー割合はやや下がったが、WEB上での開催が一般化し気軽に見るようになった結果、視聴してからエントリーをするかを決めるという学生が増えているようだ。前年度より中身が問われるようになってきていると言える。



	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
オンラインセミナー視聴企業にエントリーした (%)	67.0	80.1	61.2	72.4	66.0	72.7
エントリー社数／平均 (社)	2.5	2.0	2.6	2.5	2.2	2.5

### 6. 選考試験への参加状況

3月1日現在で、企業にエントリーシートを提出した学生は全体で93.5%。先月調査（80.2%）からさらに約17ポイント増え、9割を超えた。一人あたりの平均提出社数は12.3社。先月調査から6.6社増え、この1カ月で大きく伸びた。

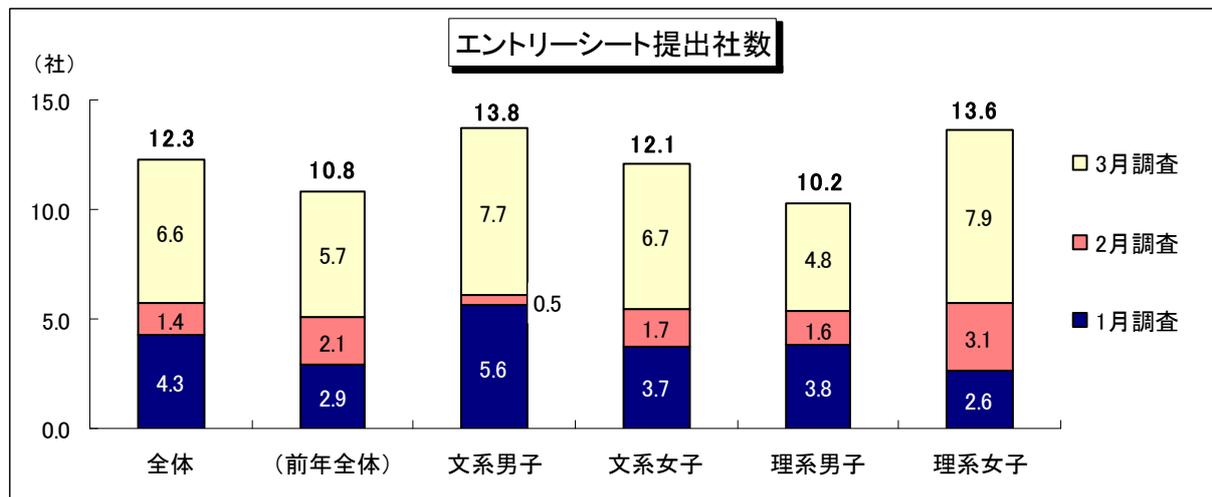
選考試験受験者は、筆記・WEB試験で9割、面接試験で6割を超えている。一人あたりの受験社数を見ると、どの形式も前年同期を上回る水準。筆記・WEB試験の先月調査の社数は3.8社だったので、およそ倍増した。面接試験の1カ月の増え幅は1.0社で、多くの企業でまだ面接を控えている様子が見える。

2月はエントリーシートの作成・提出と、筆記試験とに時間を費やした学生が多かったようだ。

エントリーシート提出の有無

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	93.5	92.9	94.5	95.1	90.6	93.4
提出していない	6.5	7.1	5.5	4.9	9.4	6.6

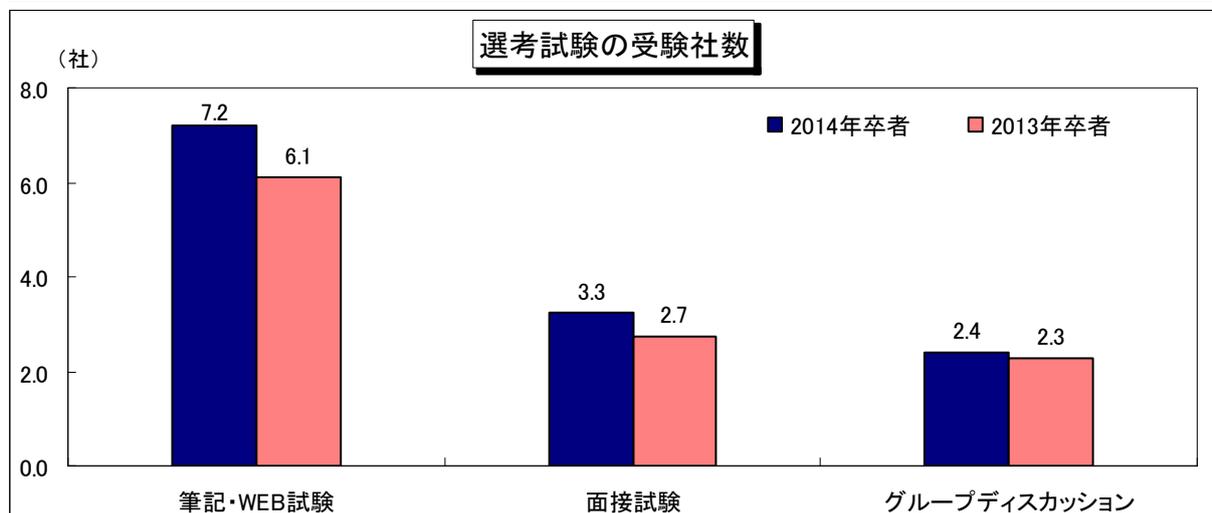
(%)



選考試験の受験状況

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	90.9	90.4	91.9	93.2	88.0	89.5
面接試験を受験した	67.8	63.3	68.7	67.5	67.4	66.4
グループディスカッションを受験した	58.4	50.3	63.7	62.1	51.1	51.3

(%)



### 7. 3月1日現在の内定状況

3月1日現在の内定状況を聞いたところ、すでに内定を手にしてという学生は全体の5.5%だった。前年の3.6%をやや上回り、前倒しの傾向がうかがえる。

少ないサンプルではあるが、内定を得た業界は「情報処理・ソフトウェア」「情報・インターネットサービス」「建設・住宅・不動産」などが多い。就職戦線はまだ始まったばかりであり、内定取得者の88.0%が活動を継続していると回答した。

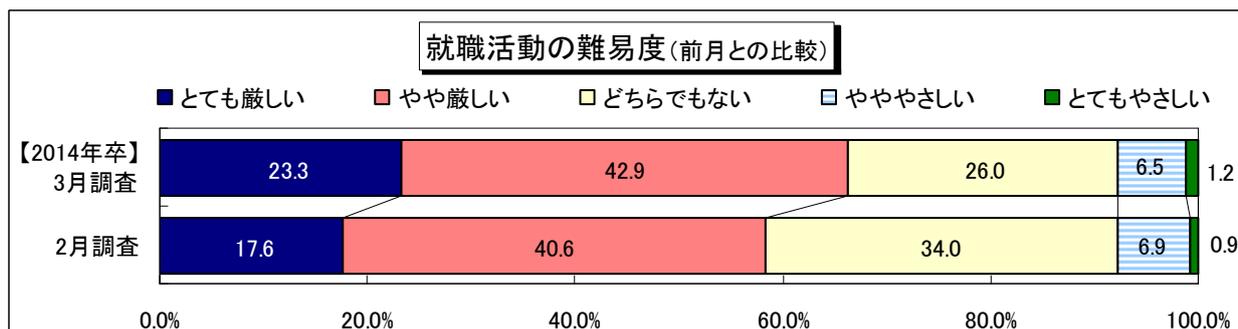
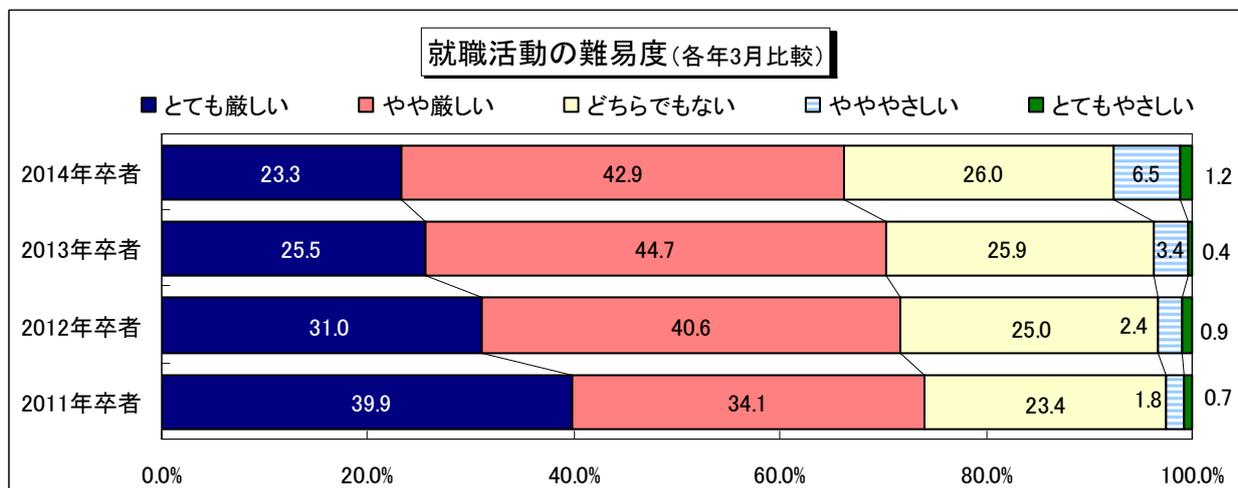
3月1日現在の内定の状況

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定有り	5.5 (3.6)	6.2 (3.9)	4.2 (3.9)	5.9 (2.8)	5.9 (3.8)
内定なし	94.5 (96.4)	93.8 (96.1)	95.8 (96.1)	94.1 (97.2)	94.1 (96.2)
内定社数 (平均/社)	1.2 (1.1)	1.2 (1.1)	1.1 (1.1)	1.3 (1.2)	1.2 (1.2)

※( )内は2012年の同調査での3月1日現在の数値

### 8. 就職活動の難易度

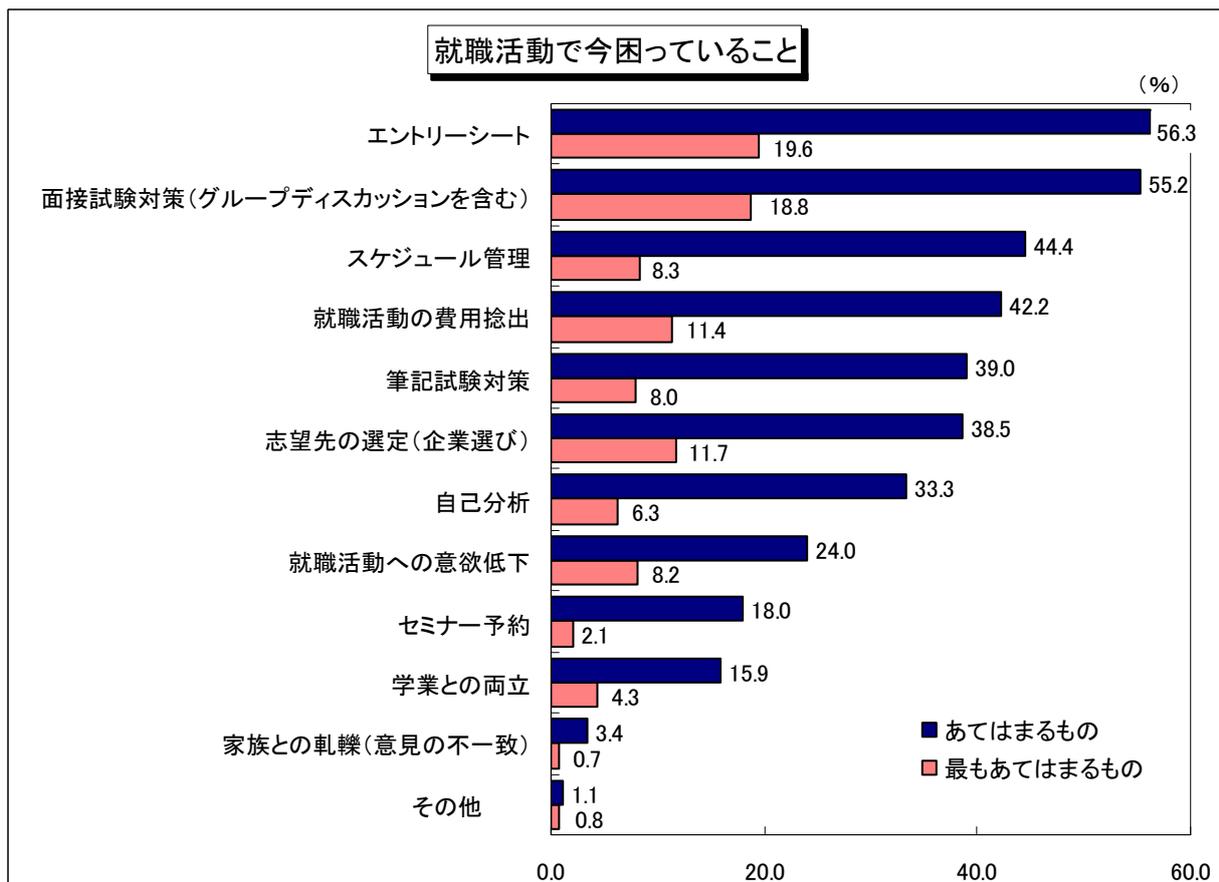
自身の就職活動を「厳しい」と感じている学生は66.2%で、「やさしい」の7.7%を大きく上回る。しかし、経年で比較すると(毎年3月調査)、「厳しい」は4年前から年々減少し、徐々に緩和されている。背景には、先輩たちの内定率が改善したことや、企業の採用意欲回復など、学生にとってプラスの要因が多い点が挙げられる。景気回復への期待もあるだろう。ただ、2月調査に比べると「厳しい」の割合は増えており、就職活動が進むにつれ、厳しさを実感する学生が増えているのも確かだ。



※「わからない」を除いてグラフ化

### 9. 就職活動で困っていること

本格的な選考シーズンを間近に控え、多くの学生が多忙を極めるこの時期、どんなことに困っているのかを聞いた。最も多いのが「エントリーシート」。56.3%と6割近くが選んでいるが、やはり4月選考開始に向け提出締切日が迫っている学生が多いためだろう。僅差で「面接試験対策」55.2%が続く。今期も「エントリーシート作成やセミナーなどに追われて対策する時間がない」という声が目立つ。「筆記試験対策」も39.0%が選んでいる。3番目は「スケジュール管理」44.4%。短い期間でいかに効率よく活動を進めるかといった悩みが、前年以上に多く寄せられている。



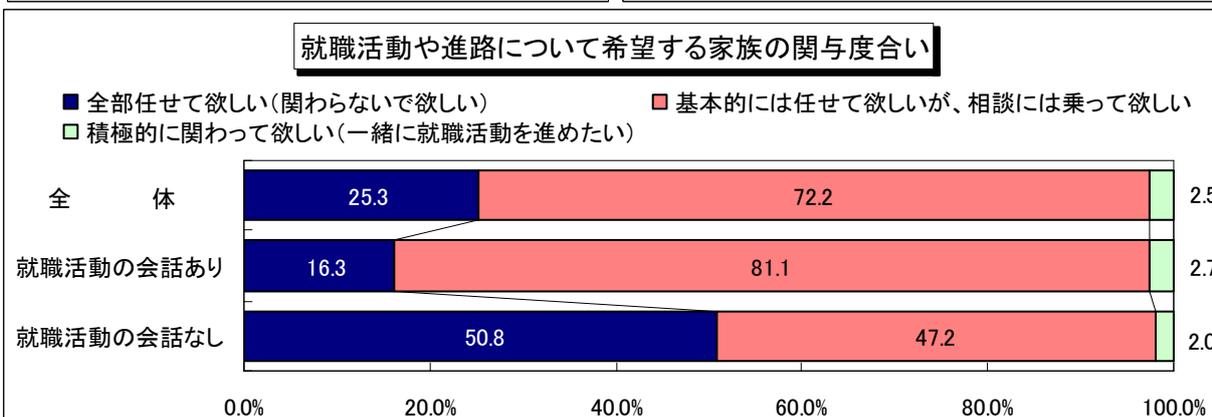
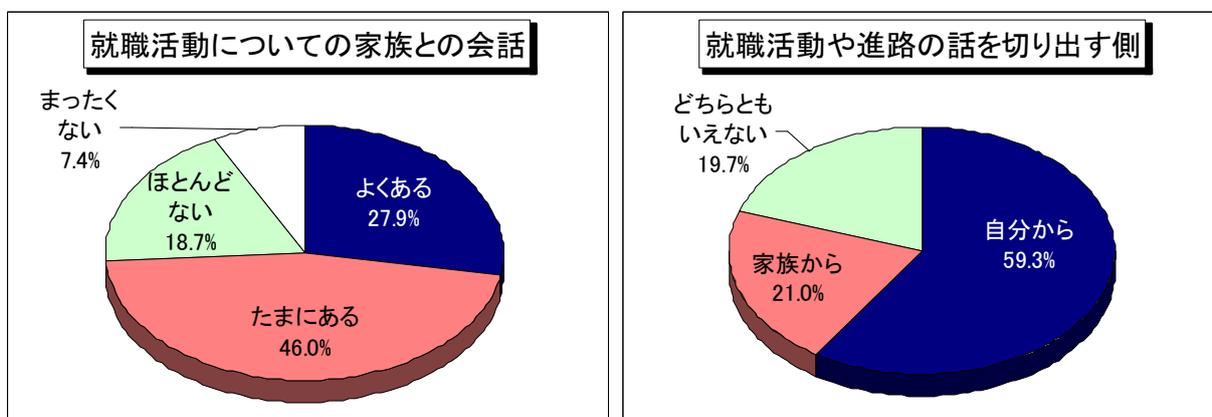
#### ■就職活動で困っていること

- 選考が早く、面接のため自己分析の時間が足りない。 <理系男子>
- とにかく時間が足りない。自分で満足のものを書き上げたいと思うが、果たしてそこまでしてこだわったESを読んでもらえるのかどうかはなはだ疑問で、モチベーションの低下につながっている。 <文系男子>
- 説明会やESに時間をとられてしまい、面接対策にとれる時間がなくなってしまっている。 <文系女子>
- 就活に時間を取られ、大学院での研究が進まない。研究するために大学院に進学したのという思いがある。 <理系男子>
- 説明会を入れ過ぎてしまうと、面接を後から入れる時間がなくなってしまい、調整が難しい。 <文系女子>
- 有益な情報を得たいため、企業セミナーに多く参加するようにしている。そのため、交通費に週1万円程度かかり、バイトをする時間も十分にとれないため、食費等の生活費をかなり削るしかない。 <理系女子>
- エントリーしている企業はどれも魅力的な企業であるので内定が重複した場合選べない。 <文系男子>
- 企業側からいつ電話がかかってくるかわからないのが疲れる。一度、夕食時に部屋に携帯を置いてしまっている間に非通知で不在着信があり、電話を取れなかったことを後悔した。 <文系女子>

### 10. 就職活動・進路選択への家族の関与

就活生の親に向けた書籍が出版されるなど、近年、親の就職支援が話題にのぼることが増えた。そこで、学生モニターに家族との関わりについて聞いたところ、就職活動や進路について家族と話すことが「よくある」のは27.9%と3割弱。「たまにある」46.0%と合わせると73.9%となり、4人に3人が家族と就職活動について何らかの会話をしていることが分かった。また、自分の側から切り出す人が多く（59.3%）、親が干渉しているというよりは、学生側が頼りにして相談しているというケースのほうが多そうだ。

就職活動について家族にどう関わって欲しいかとの問いには、72.2%が「基本的に任せて欲しいが、相談には乗って欲しい」と回答した。これを先の「就職活動の会話あり」グループに限ると81.1%と8割を超えるのに対し、「就職活動の会話なし」グループでは47.2%と半数を割る。「就職活動の会話なし」グループでは、「全部任せて欲しい（関わらないで欲しい）」が50.8%と過半数を占める。関わって欲しくないから話題に出さないとの姿勢が読み取れる。



#### ■就職活動と家族に関して

- 先日、第一志望の面接を受けました。とても緊張しましたが、家族の励ましがあつたため乗り切ることができました。 <文系女子>
- 親について言うと、弱っているときに話を聞いてもらえるのはありがたい。 <理系女子>
- 親に頼るのではなく自分の働きたい企業は自分の意思を持って決めたいと思います。 <理系男子>
- 自分の親は両親ともに、私が言うのもなんだが世間知らずであり、まったく頼りにならず辛い。 <文系男子>
- 親は大手志向だが、そう簡単に大手に内定をもらえると思ったら大間違い。だんだん腹が立ってくる。 <理系女子>
- 親が選考結果をととても気にするので、それがストレスになりつつあります。 <文系女子>